

8.5 自然との触れ合い活動の場

8.5.1 調査事項

調査事項は、表 8.5-1 に示すとおりである。

表 8.5-1 調査事項

区 分	調査事項
予測した事項	<ul style="list-style-type: none"> ・自然との触れ合い活動の場の消滅の有無又は改変の程度 ・自然との触れ合い活動の阻害又は促進の程度
予測条件の状況	<ul style="list-style-type: none"> ・施設配置計画 ・緑化計画
ミティゲーションの実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ・計画地内には、既設の緑地と合わせて約9,970㎡の新たな緑地を整備する計画としている。 ・開催後には、計画地内は水上スポーツ・レクリエーションを楽しめる施設とするとともに、にぎわいの拠点としていく計画であり、葛西臨海公園内の園路を利用経路とすることから、相互の利用者の利便性に配慮する。

8.5.2 調査地域

調査地域は、計画地及びその周辺とした。

8.5.3 調査手法

調査手法は、表 8.5-2 に示すとおりである。

表 8.5-2 調査手法

	調査事項	自然との触れ合い活動の場の消滅の有無又は改変の程度 自然との触れ合い活動の阻害又は促進の程度
	調査時点	東京2020大会の開催後(2021年度)とした。
調査期間	予測した事項	施設竣工後の2021年11月とした。
	予測条件の状況	施設竣工後の2021年11月とした。
	ミティゲーションの実施状況	施設竣工後の2021年11月とした。
調査地点	予測した事項	計画地及びその周辺とした。
	予測条件の状況	計画地及びその周辺とした。
	ミティゲーションの実施状況	計画地及びその周辺とした。
調査手法	予測した事項	既存資料及び現地調査により、自然との触れ合い活動の状況の整理による方法とした。
	予測条件の状況	現地調査(写真撮影等)、竣工図及び緑化図の整理による方法とした。
	ミティゲーションの実施状況	現地調査(写真撮影等)、竣工図及び緑化図の整理による方法とした。

8.5.4 調査結果

(1) 調査結果の内容

1) 予測した事項

ア. 自然との触れ合い活動の場の消滅の有無又は改変の程度

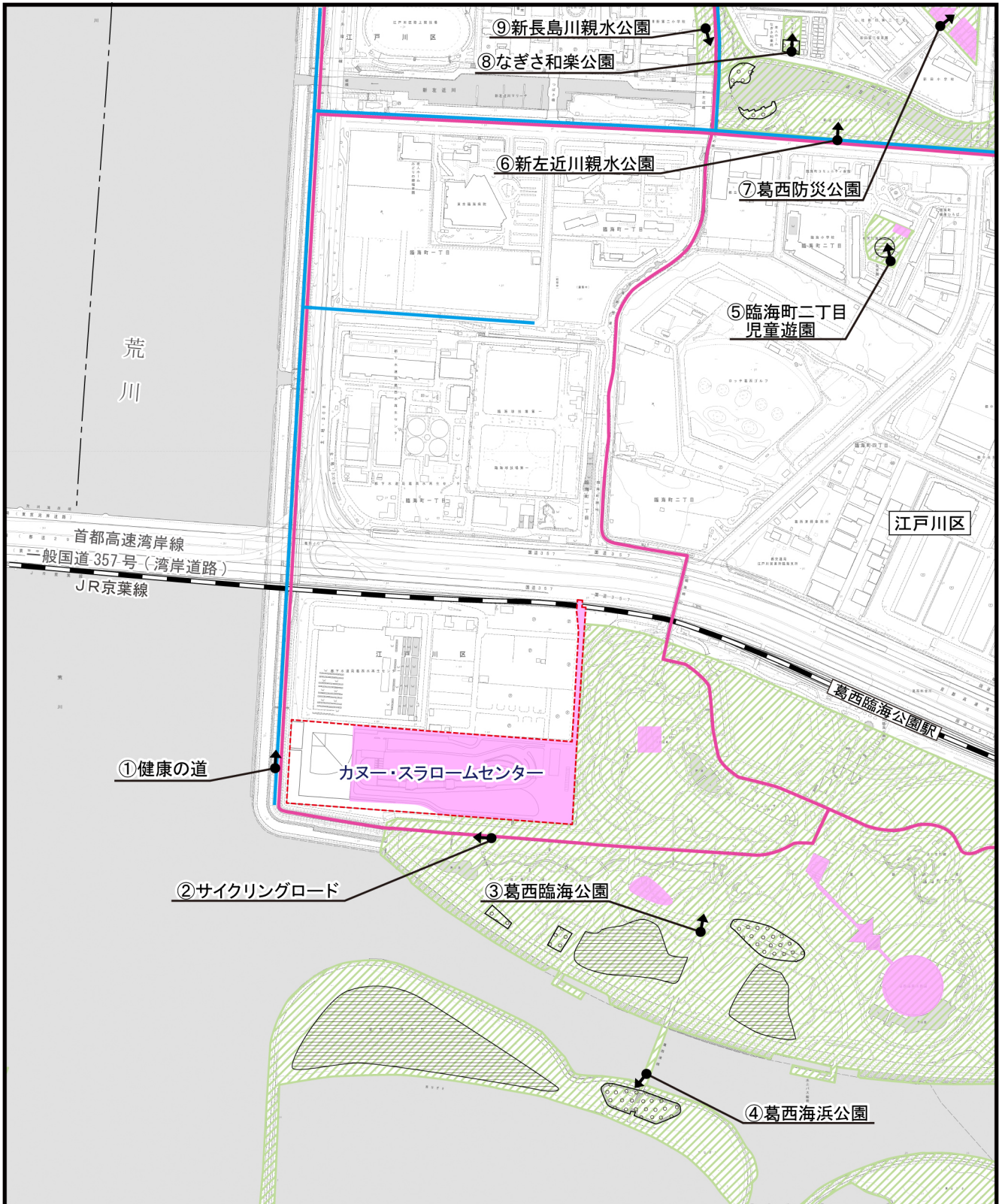
計画地周辺の自然との触れ合い活動の場等の名称及び位置は、表 8.5-3、図 8.5-1 に、施設の状況は、写真 8.5-1(1)及び(2)に示すとおりである。

事業実施前は、計画地内の東側は葛西臨海公園第二駐車場及び未利用地、西側は予約者のみ利用可能な江戸川区臨海球技場第二であり、自然との触れ合い活動の場は存在しなかった。計画地周辺に隣接する葛西臨海公園、健康の道やサイクリングロードは、事業の実施により改変されることはなく、自然との触れ合い活動の場は維持されている。

事業の実施により、図 4.2-6 (p.16 参照) に示すとおり、計画地内には既設の緑地と合わせて 13,278m² の緑地を整備する計画であり、新たな自然との触れ合い活動の場が創出され、隣接する葛西臨海公園と一体的な自然との触れ合い活動の場として利用される。

表 8.5-3 自然との触れ合い活動の場の名称及び位置

区分	番号	名称	位置	目的等
遊歩道、 道路	①	健康の道	江戸川区葛西7丁目－南葛西陸橋 (約7.0km)	親水公園や新中川の堤防上に距離表示板が設置され、ウォーキングや散策を気軽に親しむことのできる健康の道が整備されている。
	②	サイクリングロード	江戸川区上一色3丁目－江戸川区葛西7丁目 (約25km)	江戸川区北端から中川の水辺を通過して東京湾岸に至り、葛西臨海公園を経由して、荒川の水辺を走る葛西南部地域を中心としたサイクリングコース。
公園、 児童遊園	③	葛西臨海公園	江戸川区臨海町6丁目 (約810,000m ²)	臨海部に位置する広大な園内は、緩やかな勾配の芝生広場、バーベキュー場、臨海水族園、区立の宿泊施設等からなる都立公園。大観覧車により壮大かつ快適な空中散歩を楽しめる。
	④	葛西海浜公園	江戸川区臨海町6丁目 (約4,117,000m ²)	海に面した人工なぎさを持つ都立公園。西なぎさと東なぎさから成り、西なぎさでは潮干狩りや海水浴を楽しめる。東なぎさは立入禁止で、自然の鳥や貝等の生物の生息場として保護されている。
	⑤	臨海町二丁目児童遊園	江戸川区臨海町2-2-10 (約3,800m ²)	都営臨海町2丁目アパートに隣接した児童遊園。広場があり、苑内には遊具、砂場、水飲み場、ベンチ等が設置されている。
	⑥	新左近川親水公園	江戸川区臨海町2、3 (約112,000m ²)	新左近川に隣接した、広い水辺を楽しめる親水公園。区内初のボート場を始め、デイキャンプができる芝生広場など、家族で楽しめる施設がある。
	⑦	葛西防災公園	江戸川区西葛西8-17-1 (約22,000m ²)	区南部地域の防災拠点として、発災時の災害対応機能を備えた公園。芝生広場・遊具広場には、区民の憩いやにぎわいの場となる広大なスペースが確保され、遊具やベンチ等が設置されている。
	⑧	なぎさ和楽公園	江戸川区西葛西8-1-11 (約2,000m ²)	新左近川親水公園に隣接した児童遊園。ベンチ、水飲み場、芝の広場がある。
	⑨	新長島川親水公園	江戸川区清新町2-8、9、10 (約13,600m ²)	新左近川親水公園と隣接した、水の階段や噴水広場のある親水公園。水辺には多様な植栽が配置された歩道では、四季折々の花や樹木を楽しめる。



凡例

--- 計画地

--- 区界

--- JR

📍 写真撮影地点

🌿 公園等

👤 休息

🎮 広場遊戯

🎪 施設遊戯

🚶 健康の道

🚲 サイクリングロード



Scale 1:10,000

0 100 200 400m

図8.5-1
自然との触れ合いの活動の場の
調査地点・範囲



①健康の道



②サイクリングロード



③葛西臨海公園



④葛西海浜公園



⑤臨海町二丁目児童遊園



⑥新左近川親水公園



⑦葛西防災公園



⑧なぎさ和楽公園

写真 8.5-1(1) 施設の状況(2021年11月時点)



⑨新長島川親水公園

写真 8.5-1(2) 施設の状況(2021年11月時点)

イ. 自然との触れ合い活動の阻害又は促進の程度

計画地内には自然との触れ合い活動の場はない。また、事業実施に伴い、計画地周辺に隣接する葛西臨海公園、健康の道やサイクリングロードを改変することはなかった。

また、事業の実施により、既設の緑地と合わせて 13,278m²の緑地を整備する計画であることから、周辺の自然との触れ合い活動も含めた利用者の利便性が向上する。

2) 予測条件の状況

ア. 計画建築物の状況(配置、形状、高さ等)

計画建築物の状況は、「4. カヌー・スラロームセンターの計画の目的及び内容 4.2 内容 4.2.3 事業の基本計画 (1)配置計画」(p.7 参照)に示したとおりである。


イ. 緑化計画

緑化計画は、「4. カヌー・スラロームセンターの計画の目的及び内容 4.2 内容 4.2.3 事業の基本計画 (7)緑化計画」(p.15 参照)に示したとおりである。

3) ミティゲーションの実施状況

ミティゲーションの実施状況は、表 8.5-5 に示すとおりである。なお、自然との触れ合い活動の場に関する問合せはなかった。

表 8.5-5 ミティゲーションの実施状況

ミティゲーション	・計画地内には、既設の緑地と合わせて約9,970m ² の新たな緑地を整備する計画としている。
実施状況	既設の緑地と合わせて13,278m ² の範囲に芝生のほか高木、中木等を植栽し、植物が生育する基盤が創出される。
ミティゲーション	・開催後には、計画地内は水上スポーツ・レクリエーションを楽しめる施設とするとともに、にぎわいの拠点としていく計画であり、葛西臨海公園内の園路を利用経路とすることから、相互の利用者の利便性に配慮する。
実施状況	計画地内は水上スポーツ・レクリエーションを楽しめる施設として、にぎわいの拠点として整備した。また、葛西臨海公園内の園路を利用経路とすることから、相互の利用者の利便性に配慮した出入口の配置としている。
	
公園から施設へのアプローチ（赤枠が施設出入口）	

(2) 予測結果とフォローアップ調査結果との比較検討

1) 予測した事項

ア. 自然との触れ合い活動の場の消滅の有無又は改変の程度

事業実施前は、計画地内の東側は葛西臨海公園第二駐車場及び未利用地、西側は予約者のみ利用可能な江戸川区臨海球技場第二であり、自然との触れ合い活動の場は存在しなかった。計画地周辺に隣接する葛西臨海公園、健康の道やサイクリングロードは、事業の実施により改変されることはなく、自然との触れ合い活動の場は維持されている。

事業の実施により、計画地内には既設の緑地と合わせて13,278m²の緑地を整備する計画であり、新たな自然との触れ合い活動の場が創出され、隣接する葛西臨海公園と一体的な自然との触れ合い活動の場として利用される。

以上のことから、予測結果とフォローアップ調査結果は、概ね一致する。

イ. 自然との触れ合い活動の阻害又は促進の程度

計画地内には自然との触れ合い活動の場はない。また、事業実施に伴い、計画地周辺に隣接する葛西臨海公園、健康の道やサイクリングロードを改変することはなかった。

また、事業の実施により、既設の緑地と合わせて13,278m²の緑地を整備する計画であることから、周辺の自然との触れ合い活動も含めた利用者の利便性が向上する。

以上のことから、予測結果とフォローアップ調査結果は、概ね一致する。